



札幌部会(第8回)

日時:	2013年11月30日(土) 14:30-17:00
場所:	Sapporo55ビル 5階 キャリアバンクセミナールーム
参加者:	野間(同志社大)、濱地(道教大札幌校)、川瀬(札幌開成高)、前田(北海道小樽工業高)、山下(札幌市立真駒内曙中)、兼間(札幌市立定山溪中)、竹内(浦河町立浦河第一中学校)、井潤(美瑛町立美瑛中)、吉岡(滝上町立滝上中)、山崎(北海道北見北斗高)[順不同]

【内容要旨】

- 野間先生より、東京部会レポートに基づいて、来年度の夏休み経済教室、3月の年次大会、福井WS、神奈川WSについての説明及び、各部会の報告があった。
- 井潤先生より、北海道社会科研究大会の中学校公民部会発表資料「わたしたちの暮らしと経済」に基づいて、「生産者と消費者の役割と責任について考えよう」の単元構成と授業内容についての発表があった。授業における主な学習過程は、①フェアトレードと一般的なチョコレートの消費者としての選択、②チョコレート会社のCSR活動の内容調査、③再びフェアトレードと一般的なチョコレートの消費者としての選択、④企業と消費者の役割と責任についてワークシートにまとめる活動を通して、消費者や企業には、自分の利益だけを優先させて行動するだけでなく、社会全体のことも考えて行動する責任を考えさせることである。発表後、参加者による議論の中核となったのは、企業のCSR活動の経済的価値付けについてであり、フェアトレードと企業のCSR活動について混乱を生じさせない学習過程の創造などが今後の課題とされた。
- 竹内先生より、「うららべつ手作りマーケットへの参加より」の資料に基づいて、現在担当されている特別支援教育を通して取り組まれている経済学習についての報告があった。これは、特別支援の生徒たちが自分たちで作った作品の販売活動に向けて、「読売KODOMO新聞」を用いて、価格設定に色々な経費がかかっていることをつかませる学習活動である。特別支援の生徒たちへの経済教育は、これまで取組まれていない分野であり、今後の竹内先生のさらなる授業研究が期待されている。
- 川瀬先生より、今後の札幌部会の取組として、①北海道の高校入試問題、大学入試問題を用いた授業、②『札幌学』のようなご当地学を用いた授業、③2030年の北海道、2050年の北海道を予想させるような授業を作ってみてはどうかという提言があった。

(文責:北海道北見北斗高等学校 山崎 辰也)

次回開催予定:2月1日(土)14:30~17:00。場所はSapporo55ビル5階キャリアバンクセミナールーム。議題は、北海道らしい教材の交流、参加者からの活動報告、その他。